



2007年 9月18日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役社長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画本部 広報・IR部
 TEL 03-6895-0178

2007年8月度 大丸 連結営業報告

1. セグメント別売上高対前年増減率 (%)

	8 月 度	3～8月 累計
百貨店業	5.2<4.9>	1.0<0.7>
除くららぼーと横浜店	4.4<4.1>	0.3<▲0.0>
スーパーマーケット業	3.5<3.2>	3.4<3.1>
卸売業	▲8.3	6.9
その他事業	22.2	7.6
連結合計	1.5<1.3>	1.9<1.8>
除くららぼーと横浜店	1.0<0.8>	1.4<1.3>

- (注) 1. 平成19年5月度より、その他営業収入（不動産賃貸料収入）を売上高に含めている。
 < >内数値は、不動産賃貸料収入を除く従来ベースでの対前年増減率。
 2. 各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

2. 百貨店業 売上高概況

1) 店舗別売上高対前年増減率 (%)

	8 月 度		3～8月 累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	2.2<1.8>	▲1.0	▲0.9<▲1.4>	▲1.7
梅田店	1.1<0.7>	0.0	▲1.5<▲1.8>	▲0.2
東京店	32.3<31.8>	29.3	5.1<4.7>	14.5
ららぼーと横浜店	-<->	-	-<->	-
京都店	1.2<0.9>	▲0.7	0.7<0.4>	0.2
山科店	0.8<0.8>	-	1.9<1.9>	-
神戸店	1.8<1.5>	▲1.3	▲0.2<▲0.6>	▲2.3
新長田店	0.7<0.7>	-	▲1.4<▲1.4>	-
須磨店	▲1.7<▲1.7>	-	▲1.0<▲1.0>	-
芦屋店	▲0.3<▲0.3>	-	0.8<0.8>	-
札幌店	8.5<8.0>	6.3	5.4<5.0>	3.8
直営11店舗計	6.8<6.4>	7.0	1.7<1.3>	3.1
除くららぼーと横浜店	5.7<5.4>	-	0.8<0.5>	-
博多大丸	2.0<1.9>	5.6	▲1.3<▲1.3>	1.4
下関大丸	▲5.0<▲5.1>	▲5.1	▲2.0<▲2.1>	▲4.2
高知大丸	▲4.6<▲4.6>	0.4	▲2.7<▲2.7>	▲3.0
今治大丸	▲5.6<▲5.6>	▲4.1	▲3.7<▲3.7>	▲3.0
百貨店業合計	5.2<4.9>	-	1.0<0.7>	-
除くららぼーと横浜店	4.4<4.1>	-	0.3<▲0.0>	-

- (注) 1. 直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸、札幌の6店合計である。
 2. ららぼーと横浜店は平成19年3月15日にオープンした。
 3. < >内数値は、不動産賃貸料収入を除く従来ベースでの対前年増減率。

2) 直営店 商品別売上高対前年増減率 (%)

	8 月 度	3～8月 累計
紳士服・洋品	7.3	▲0.9
婦人服・洋品	5.3	1.4
子供服・洋品	▲2.2	▲3.7
その他の衣料品	12.1	▲2.1
衣料品計	5.7	0.6
身回り品	1.0	▲6.1
家具	11.2	▲0.7
家電	0.4	▲13.8
その他の家庭用品	13.1	2.4
家庭用品計	11.8	0.6
生鮮	9.3	9.7
菓子	4.4	4.9
惣菜	10.4	12.3
その他食料品	6.8	1.9
食料品計	7.3	6.6
食堂・喫茶	6.1	1.9
化粧品	9.5	5.4
美術・宝飾・貴金属	20.1	2.4
その他雑貨	▲2.4	▲3.1
雑貨計	11.6	2.8
サービス	4.3	2.5
その他	69.0<▲15.8>	51.8<▲10.9>
合計	6.8<6.4>	1.7<1.3>

- (注) 2007年3月から「ティファニー」の売上を「身の回り品」から「婦人服・洋品」に移動。

3. 概況

1) 百貨店業

- ・ 8月の百貨店業の売上高は、新店移転オープン(11/6)前の全館売りつくしセールが大盛況な東京店をはじめ、各店でも化粧品・時計・宝飾品など雑貨や食料品を中心に好調に推移し、不動産賃貸料を除いた直営店は対前年6.4%増、百貨店事業全体では同4.9%増となった。
- ・ 直営店の店別売上高は、売りつくしセールの嵩上げにより3割増となった東京店など直営既存店10店舗のうち8店舗が前年を上回った。
- ・ 婦人服・洋品は、東京店の売りつくしを中心にプレタポルテからミセス・ヤングファッションまで活発に動いたほか、サングラス、パラソルなど洋品も好調に推移した。紳士服・洋品は、プレタポルテやスポーツウエア、ユニフォームなどが伸ばした。身の回り品は、アクセサリやハンドバッグが牽引した。食料品は、菓子から生鮮三品、惣菜まで全般に好調に推移し、すべての既存店で伸ばした。雑貨は、時計・宝飾品が大幅増となったほか、化粧品も好調を持続した。
- ・ 博多大丸は、宝飾品に動きが見られたほか、婦人雑貨や食料品などが好調に推移した。下関大丸は、上旬の台風の影響や催事の不振により苦戦した。

2) その他

- ・ スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、3月にオープンした3店「三田伊皿子店」「東池袋店」「芝浦アイランド店」による嵩上げ効果により、不動産賃貸料収入を除いた全店対前年3.2%増となった。
地区別では、関東地区が上記3店の出店効果もあり対前年5.8%増（既存店同▲0.4%減）
関西地区は同▲0.5%の微減であった。
- ・ 卸売業の大丸興業の売上高は、電子部品は好調を持続したものの、畜産・農水産品などの不振が響いた。

2007年 8月 松坂屋月次営業報告

1. 店舗別売上高(対前年増減率)

	売上高(%)	構成比(%)	入店客数(%)	営業日数増減
名古屋店	0.3	44.6	△ 5.0	±0日
岡崎店	2.7	2.0	△ 10.7	±0日
名古屋駅店	3.0	5.0	3.9	±0日
豊田店	2.5	3.7	5.0	±0日
高槻店	6.7	7.5	1.6	±0日
上野店	15.1	21.3	2.4	±0日
銀座店	7.6	5.8	△ 3.3	±0日
静岡店	△ 0.6	10.2	△ 4.4	±0日
合計	4.2	100.0	△ 0.9	

2. 商品別売上高(対前年増減率)

	売上高(%)	構成比(%)
紳士服・洋品	△ 4.6	4.7
婦人服・洋品	△ 3.9	24.0
子供服・洋品	△ 4.1	1.8
その他衣料品	3.4	3.4
衣料品計	△ 3.3	33.9
身の回り品	△ 6.8	10.3
化粧品	1.1	3.5
美術・宝飾・貴金属	△ 9.9	6.6
その他雑貨	19.0	8.4
雑貨計	3.7	18.5
家具	△ 2.3	3.0
家電	△ 9.1	0.7
その他家庭用品	△ 0.6	4.6
家庭用品計	△ 2.0	8.3
生鮮食品	3.1	3.4
菓子	2.8	7.4
惣菜	2.0	7.1
その他食料品	424.0	5.8
食料品計	27.8	23.7
食堂・喫茶	8.0	3.7
サービス	0.8	1.2
その他	5.0	0.4
合計	4.2	100.0

3. 商況概況

<主な店舗別売上高概況>

- ・全店売上高は対前年+4.2%。静岡店を除く全店が前年を上回った。
- ・名古屋店は、本館9・10階レストラン街の改装効果が持続し、全体としては微増となった。
- ・上野店は、前年改装工事のため閉鎖されていた婦人服部門等が好調で、2桁増となった。
- ・静岡店は、競合店の影響により、前年に僅かに及ばなかった。

<主な商品別売上高概況>

- ・紳士服・洋品は、ヤング衣料が苦戦。
- ・婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが不調。
- ・美術・宝飾・貴金属は、宝飾品の売上減によるマイナス。
- ・その他雑貨は法人外商の大口受注により大幅増。
- ・その他食料品は、前年のギフト券売上計上方法変更の影響により前年を大幅に上回った。
- ・食堂・喫茶は、名古屋店本館レストラン街の好調により、対前年増。

(注) 1、2表とも、構成比の合計は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

2007年8月 横浜松坂屋月次営業報告

1. 店舗別売上高(対前年増減率)

	売上高(%)	入店客数(%)	営業日数増減
横浜松坂屋	+12.3	△ 2.6	±0日

2. 商品別売上高(対前年増減率)

	売上高(%)	構成比(%)
紳士服・洋品	△ 1.4	2.8
婦人服・洋品	+1.3	16.3
子供服・洋品	△ 55.6	2.9
その他衣料品	△ 23.2	1.4
衣料品計	△ 14.1	23.4
身の回り品	+54.0	4.1
化粧品	+6.3	2.3
美術・宝飾・貴金属	+14.6	12.9
その他雑貨	+63.8	0.9
雑貨計	+15.3	16.1
家具	△ 72.7	0.1
家電	△ 5.5	1.3
その他家庭用品	△ 36.8	1.6
家庭用品計	△ 30.4	2.9
生鮮食品	+0.1	11.4
菓子	+1.2	6.3
惣菜	△ 1.0	11.1
その他食料品	+165.9	5.0
食料品計	+59.3	33.8
食堂・喫茶	+0.0	2.4
サービス	+17.8	7.7
その他	△ 3.3	9.5
合計	+12.3	100.0

3. 商況概況

＜主な売上高概況＞

・売上高は対前年+12.3%。

・入店客数は△2.6%。

＜主な商品別売上高概況＞

・子供服・洋品は、前年大口特注の反動減。

・身の回り品は、婦人アクセサリーの好調による増。

・美術・宝飾・貴金属は、会場催事売上好調による増。

・その他雑貨は外商大口特注による増。

・家具、その他家庭用品は、前年大口特注の反動減。

・その他食料品は、前年のギフト券売上計上方法変更の影響による大幅増。

・サービスは、テナントの好調による増。

(注) 2表の構成比合計は、計算処理上必ずしも100%にはなりません。

お問い合わせ先	J. フロント リテイリング株式会社 広報・IR部
	TEL 03-6895-0178
	FAX 03-6674-7565